



主任コラム10月号



主任 澤井 良子

9月6日、7日には年長児がお泊り保育に出かけました。この行事は、一晩保護者の方と離れて過ごす事だけが目的ではなく、それまでの課程も大事にしてきました。例えば、役割やグループのリーダー、食事（たくさんメニューの中からの選択）などを自分達で意見を出し合い、みんなが納得いく形で決められるようにし、また、それぞれが責任を持ち役割を達成することや、自分の思いや意見を相手に伝えると共に相手の意見も受け入れるという経験もお泊り保育を通して取り組んできました。特にグループの名前決めでは、「虫の名前がいい！」と言った S 君に対して、同じグループの女の子達が「虫はイヤ」と言い、他の子が「S くんは、虫以外の何だったらいいの？魚とかだったらいい？」と提案をし、【イルカ】という名前にグループ全員が納得し決めてきたのには、さすが年長児だなと感じました。他にもリーダー決めなど色々と子ども同士の意見がぶつかりあう姿も見られ、こうやって自分の意見も伝えつつ、他者の思いを知り受け入れ答えを出す・・・ということができていくのは大切だと、担任から話し合いの様子を教えてもらう中で感じました。お泊り保育の中では、100円を持って自分の好きなお菓子を駄菓子屋さんで買う体験、みんなでお風呂に入る事、好きなお友達と一緒に寝ることなど普段の保育の中では体験できないこともたくさん出来ましたが、やはり翌朝のお散歩では『お友達もいて、楽しかったけどママの隣で寝たかったな』『ちょっとさみしかった』と、思いを口に出している子もいました。やっぱり保護者の方が1番なんだと感じました。無事32名、対面式で賞状も貰え終えることもできて、子どもたちも保育士も達成感でいっぱいとなりました。



今、年長児がお部屋のお当番や、0・1歳児クラスのお手伝いに行ってくれています。0・1歳児クラスでは午前のおやつを配ったり、オムツを替えたり、手指消毒などをしてきています。0・1歳児クラスの子も楽しみにしてくれていますが、年長児も楽しみにしています。年長児が目線に合わせて小さい子の言葉に耳を傾けたり、「エプロン、自分でできるんや！」と、小さい子ができることにびっくりする姿もありました。その姿を見ているからなのか、年長児が園外保育に出かけた時に、年中児が「お当番する！」と、ここぞとばかりに頑張ってくれていました。保育士にお当番バッチを作ってもらい、お布団を敷き給食後の雑巾掛けもしてくれました。雑巾掛けでは、きれいに床を拭き、イスもきれいに並べて「先生、これでいいかチェックしてください」と言いに来てくれました。その姿に『年長さんみたいだね』と声をかけるととても誇らしげでした。そして、また別の日には年長児の R ちゃんが、私が製作コーナーでハサミを使っていたら、多くの年少児が「ハサミを使いたい！」とやって来て、対応しきれずに『ちょっと待っててね』と言っているのを聞いて「先生、R ハサミ使えるから年少さんに教えようか」と言ってくれました。その言葉にすごく助けられ頼もしく思い R ちゃんに頼りました。

これらのことから、人格形成の基礎として、大人が何かを教えようとするのではなく、子ども達自身が他者と関わる力（共感力、おもいやり）や問題を解決する力、人を助けることで自分が必要とされるとう安心感を保育園生活の中で体感していくことが大切ではないかと感じました。